

原著論文

バレーボール界における大学とSVリーグ、Vリーグ所属チームの連携について

Cooperation between universities and SV League and V League teams in volleyball

山本 彩香^{*1}, 水野 秀一^{*2}, 中山 雅斗^{*3}, 熊野 陽人^{*2}

要約：本研究では、バレーボールにおいて大学とSVリーグ、Vリーグ所属チームがどのような連携をしているか明らかにすることを目的とし、現状どのような取り組みを行なっているかをまとめることとした。2017年から2024年の6年間に、大学と連携していたバレーボールチームはSVリーグでは女子が4チーム、男子が2チームの計6チームであった。またVリーグでは女子が2チーム、男子が1チームの計3チームであった。その中でもヴィクトリーナ姫路だけが唯一のプロチームであり、3大学と連携していた。連携事業に関しては、大学バレーボール部の育成・強化に関する事業とSVリーグまたはVリーグのホームゲームに大学生が運営スタッフとして参加するなどのインターンシップ事業の2つが連携事業の内容として多く見られた。また地域貢献といった内容もいくつか見られた。今後の課題としては、NPB、Jリーグ、Bリーグと大学の連携を比較すると大学と連携しているバレーボールチームの数やSVリーグまたはVリーグ所属チームと連携している大学数は少ない傾向にあり、連携事業については明確になっているが、具体的な取り組みについて明記されている事項も少なく、連携後に連携事業をどこまで実施しているか不明瞭なところがあった。2024年に開催されたパリオリンピックの影響を受けて、男子バレーボールの人気の高まり、メディア出演や広告出演が急増している中、2024年よりSVリーグも開幕するため、それらをきっかけに今後プロ化がどう進んでいくのか、チームの事業がどのように変化していくのかなど、バレーボール界はどのように変革されていくのか調査を続けていく必要がある。

Key Words：バレーボール、大学、SVリーグ、Vリーグ、連携

I. はじめに

日本のスポーツ界ではNPBと呼ばれる日本のプロ野球リーグ、Jリーグと呼ばれるプロサッカーリーグをはじめ、Bリーグと呼ばれるプロバスケットボールリーグ、Tリーグと呼ばれるプロの卓球リーグ、NTTジャパンラグビーリーグワンと呼ばれるプロラグビーリーグがある。プロスポーツリーグは競技ごとに大会が設けられ、観客やメディアの注目を集め、大きな収益を得ている。松原（2008）によるとプロスポーツチームにとっての収入源はチケット収入、飲食物販収入、放送権料収入、スポンサー収入に大別することができる。「これらの収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことによ

り、スポーツ市場規模5.5兆円を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円に拡大することを目指す。」（永田2017）としている。そうした中、バレーボールの国内トップリーグは、「日本リーグ」から始まり、サッカーのJリーグができたことを受け、これまでも数回再編が行われてきたが、準備期間が短かったことや実業団チームの賛同が得られなかったこともあり、プロ化ではなくV.LEAGUE（以下、Vリーグ）と呼ばれるバレーボールリーグにとどまっていた。武田（2024）の報告によるとVリーグはプロチーム、クラブチーム、企業スポーツチームが混在するリーグ形態であり、その中でも企業スポーツチームが大半を占めていた。これらの現状からホームゲームにおいてチケット収入やその他グッズ収入などがあまり重要視されていないことが伺える。その後、これらの課題に向き合いながら、スポーツ産業を成長させていくために2024-2025シーズンから一般社団法人SVリーグと一般社団法人Vリーグに法人分割した。特にSV.LEAGUE（以下、SVリーグ）は2027年には完全なプロリーグ化を目指し、世界最高峰のリーグを実現

2024年11月6日受付／2025年1月8日受理

^{*1} YAMAMOTO Ayaka

関西福祉大学大学院 社会福祉学研究科

^{*2} MIZUNO Shuichi

KUMANO Akihito

関西福祉大学 社会福祉学部

^{*3} NAKAYAMA Masato

大阪体育大学 非常勤講師

するために立ち上げた新たなリーグとなる。

高松ほか（2019）の報告によれば、2016年に姫路市を拠点にプロバレーボールチームのヴィクトリーナ姫路が設立された。ヴィクトリーナ姫路は、「1. バレーボール大国日本の復活に貢献する」、「2. チームの価値を高め多くのファンに愛され自立した球団経営を行う」、「3. バレーボールを生涯スポーツととらえ次世代育成を含む地域活性化に取り組む」といった方針を掲げて活動している。「日本において女子プロバレーボールチームが創設されたのは、日本リーグが始まってから実に約50年後のことである。ゼネラルマネジャーには眞鍋政義氏が就任し、その際に「日本以外はみんなプロです。またメダルをとるにはプロ化以外にない。バレー界のために、このプロチームを成功させないといけない」と述べている（朝日新聞、2016）。さらに2018年には一般社団法人ヴィクトリーナ・エリートアカデミーが育成チームとして「マックスバリュ・ヴィクトリーナ（現：ヴィアール兵庫）」とU23強化指定チームとして「関西福祉大学女子バレーボール部」を立ち上げた。

プロスポーツ産業において、人材育成の観点から高等教育機関におけるスポーツ関連の学部設置状況を見ると、2003年4月に日本で初めてスポーツを大学名に入れた「びわこ成蹊スポーツ大学」が新設され、同時に早稲田大学がスポーツ科学部を開設した。その後さらに高等教育機関である大学にスポーツ関連の学部・学科が増加し、中でも関西におけるスポーツ関連の学部・学科を持つ大学は42大学に上る。こうしたスポーツ関連大学におけるカリキュラムの内容や変遷に関しては、主にスポーツマネジメント分野において研究が蓄積されてきた。松岡（2008）によるとスポーツマネジメント教育について、「標準的カリキュラムの設定が望まれる」（Matsuoka, 2007）こと、学んだことを実習科目などを通して実践と結びつけるような応用的な教育が求められること、スポーツマネジメントで学位を取った教育者を増やすこと、スポーツマネジメントを学んだ人材が社会で活躍するなどの重要性について述べている。今後はプロスポーツ団体・クラブや民間フィットネスクラブなどの営利目的の組織だけでなく、非営利スポーツ組織や公共スポーツ施設も含めて、あらゆるスポーツ現場においてスポーツマネジメントを学んだ人材が必要であることを周知する必要もある。これらスポーツマネジメント教育は、プロスポーツチームとの連携がスポーツマネジメント教育の質保証につながるという観点もある。

スター選手の育成や輩出といった強化の観点でも、山本ほか（2024）の報告によれば、ヴィクトリーナ姫路と同じ組織に所属する育成チームが連携したことで実業団チームと大学女子バレーボール部の強化ができ、それぞれの試合での結果に結びつけることができたり、選手を輩出したりすることができるという連携のメリットを報告している。またヴィクトリーナ姫路と大学の連携を皮切りに企業チーム、バレーボールチームと大学の連携もいくつか見られるようになった。先行研究では、主に関西におけるNPB、Jリーグ、Bリーグに所属するプロスポーツチームが大学とどのように連携しているか明らかにしている事例があったが、バレーボールチームと大学の連携についてはヴィクトリーナ姫路と関西福祉大学の事例しか見当たらなかった。今後もプロスポーツ産業が発展していく中では、プロスポーツチームが大学とどのように連携し、実践的な取り組みを実施していくことが望ましいかを検討していく必要がある。

そこで本研究ではバレーボールにおける大学とSVリーグ、Vリーグ所属チームがどのような連携をしているか明らかにすることを目的とし、現状どのような取り組みを行なっているかをまとめることとした。

II. 研究方法

インターネットを活用し、全国のSVリーグ、Vリーグに所属するチームと大学の連携事業の2017年から2024年までの実績を調査した。具体的にはSVリーグ所属チームとVリーグ所属チームおよび大学のホームページ上に掲載されている連携事業の情報をインターネット検索を用いて収集した。検索の際のキーワードは、「(チーム名)、大学、連携」とした。

A. SVリーグの概要

SVリーグは「強く・広く・社会とつなぐ」のミッションを掲げ、競技力のみならず事業力やガバナンス力を含むすべての分野で「世界最高峰のリーグ」となることを目指した日本のトップリーグである。2024年4月に大同生命がSVリーグのタイトルパートナーに就任した。SVリーグに所属している男子チームは10チーム、女子チームは14チームであった。

B. Vリーグの概要

1994年にスタートした国内トップリーグの名称であった。現在はSVリーグの2部に当たるリーグとなっている。Vリーグに所属している男子は18チーム、女子は11チームであった。

なお、SVリーグが新設されたことによって新クラブライセンスが設定された。SVライセンスとVライセンスの主な共通項目についてSV.League 公式ページのライセンス概要をもとに表1に示した。(online1)さらに、SVライセンスとVライセンスの主な相違項目について表2に示した。(online1)

Ⅲ. 結果および考察

大学とSVリーグ所属チーム、Vリーグ所属チームの連携内容や事業について表3にまとめた。2017年から2024年の6年間に於いて大学と連携していたバレーボールチームはSVリーグ所属チームは8チーム、Vリーグ所属チームは3チームであった。連携した実績のある大学は13大学であった。

1. SVリーグ所属チームと大学の連携について

2017年から2024年の6年間に於いて、大学と連携していたバレーボールチームはSVリーグでは女子が4チーム、男子が2チームであった。まず女子チームに関しては、ヴィクトリーナ姫路は関西福祉大学、神戸親和大学、明海大学と連携していた。連携の形態はそれぞれ違うが、取り組み内容として3組とも共通していたのが、

大学女子バレーボール部の強化であった。ヴィクトリーナ姫路には育成組織としてU23強化指定チームの関西福祉大学女子バレーボール部だけでなく、実業団連盟所属のヴィアール兵庫というチームもある。2017年から2024年までに関西福祉大学から4名、神戸親和大学からは4名、大学卒業後ヴィアール兵庫に入団しているという実績があり、ヴィクトリーナ姫路には神戸親和大学から1名、明海大学からは1名、プロ選手として入団していたという実績があった。これらの実績から大学でバレーボールを強化することは、最終的にヴィアール兵庫やヴィクトリーナ姫路に選手を輩出することを目指しているためだと推察できる。

PFUブルーキャッツ石川かほくと金城大学も包括連携協定によって女子バレーボール部の強化に関わる連携をしていくことが明確になっている。以前までは大学卒業後、Vリーグに入団する選手よりも高等学校卒業後Vリーグに入団する選手の方が多かった傾向にあったが、最近では大学バレーボール部に所属する選手の活躍が目立っており、大学在学中から日本代表選手に選出されたり、SVリーグあるいはVリーグ所属チームに帯同して試合に出場したりなどの事例も増えている。このような事例もあり、大学から育成して、卒業後もトップ選手として

表1 SVライセンス・Vライセンスの主な共通項目 (online1)

	SVライセンス	Vライセンス
母 体 会 社 の 法 人 格	・取締役会設置株式会社 (2027-28 シーズンより必須)	・取締役会設置株式会社 (2030-2031 シーズンより必須)
ク ラ ブ の 経 営 責 任 者	・代表取締役の設置 (バレーボール事業未法人化クラブの場合) ・クラブの運営・事業・資金決算の専決権限を有する所管役員または同等の役職者の設置	
ユ ー ス チ ー ム	U15 カテゴリー、U18 カテゴリーの ユースチームの保有 (U15) 2024-25 シーズンより必須 (U18) 2027-28 シーズンより必須	U15 カテゴリー、U18 カテゴリーの ユースチームの保有 (U15) 2027-28 シーズンより必須 (U18) 2027-28 シーズンより必須
ユースチーム・育成指導者資格	・ユースチーム監督：コーチ2以上 ・育成責任者：コーチ2以上 ・育成担当(1名必須)：コーチ1以上	
ス ク ー ル 等 の 活 動	・スクールの運営、学校等への選手またはコーチ派遣、バレーボール教室、生涯スポーツプログラムの提供、バレーボール活動資金援助等の活動実施	
財 務	・3期連続赤字の禁止 ・純資産金額のマイナス(債務超過)の禁止	

表2 SVライセンス・Vライセンスの主な相違項目 (online1)

	SVライセンス	Vライセンス
ホ ー ム ア リ ー ナ	ホームゲーム数の80%以上開催	ホームゲーム数の60%以上開催
基 準 ・ 要 件	入場可能数5,000名以上 (2029-30までは3,000名以上)	入場可能数2,000名以上 (2029-30までは750名以上)
ク ラ ブ ハ ウ ス	チーム専用クラブハウス必須	チーム専用クラブハウス推奨
売 上 高	6億円以上(2026-27までは4億以上)	2億円以上(2030-31までは推奨)
専 任 人 材	アナリスト・通訳・医師必須	アナリスト・通訳・医師推奨
ト ッ プ チ ー ム 指 導 者 資 格	監督・コーチ(1名必須)：コーチ4以上	監督・コーチ(1名必須)：コーチ3以上
外 部 監 査	外部監査必須	外部監査推奨

表3 チームと大学の連携表

連携名	連携日	リーグ	チーム名 (所在地)	大学名 (所在地)	内容
包括連携協定	2017. 11. 7	SV	ヴィクトリーナ姫路 (兵庫県)	関西福祉大学 (兵庫県)	・女子バレーボール部を創部し、ヴィクトリーナ姫路から唯一V23育成指定を受けるチームとなっている。 ・実際のプロスポーツチームの運営に携わることのできるインターンシップ等を実施 ・スポーツマネジメント等に関する講義やボランティアを実施 ・大学教職員の研究活動・成果とヴィクトリーナのノウハウ等の交流により双方の発展及び地域社会への貢献を図る。
産学連携協定	2018. 6. 16	SV	ヴィクトリーナ姫路	神戸親和大学 (兵庫県)	・親和学園の中学校・高等学校・大学バレーボール部を長期的に育成し、一貫した技術指導でチームの強化に取り組む ・2018年には世界バレー女子大会に出場するトリニダード・トバゴ女子代表チームの姫路事前合宿の会場として神戸親和大学が提供された
連携協力協定	2018. 7. 25	SV	ヴィクトリーナ姫路	明海大学 (千葉県)	・2019年の指導を目指し、創部4年目の2022年に強豪校入りを果たすことを目標に大学女子バレーボール部を強化する ・大学女子バレーボール部に所属する選手ヴィクトリーナ姫路の特別指定選手として登録(2022-2023) ・ヴィクトリーナ姫路所属で2024年パリオリンピック日本バレーボール女子代表として活躍した選手が特別公演を行った。
事業連携・推進に関する協定	2018. 12. 4	SV	長野トライデンツ (長野県)	松本大学 (長野県)	・地域の子供達の長期的な健全育成を図ること、学生スポーツ・地域スポーツの振興と発展をサポートする。 ・松本大学の学生がゲーム運営スタッフとしてホームゲームに参加する。
ホームゲームパートナー契約	2021. 10. 26	SV	SAGA久光 スプリングス (佐賀県)	びわこ成蹊 スポーツ大学 (滋賀県)	・2022年に大学女子バレーボール部の強化協力として両者の練習試合が実現した ・ホームゲーム開催時に大学のPR活動を実施予定。 ・SAGA久光スプリングスの元選手がチーム退団後、スポーツ推薦で大学に入学した。 ・2023年に学生が球団スタッフとしてインターンシップに参加し、その後大学4年次にSAGA久光スプリングス球団スタッフとしての就職が決まる。
パートナーシップ契約	2022. 10. 4	SV	サントリー サンバーズ大阪 (大阪府)	大阪青山大学 (大阪府)	・2022 年10月にウルフドッグス名古屋とのテストマッチ後に「サントリーサンバーズ賞後援会」主催で社行会が行われた。 社行会には大阪青山学園のスタッフも参加し、10 月 22 日(土)に開幕する V リーグ 2022-23 DIVISION 1 での活躍を願って激励を行った。
包括的産学連携協定	2023. 7. 11	V	アルテミス北海道 (北海道)	札幌国学院大学・ 札幌国学院短期大学 (北海道)	・大学はスポーツ人間学部があり、アルテミスと連携してスポーツ振興、地域社会の発展に貢献する。 ・選手の体力測定やデータ分析などを協力したり、学生のインターンシップの受け入れをしたりしていく。
包括連携協定	2023. 9. 26	SV	PFUブルーキャッツ 石川かほく (石川県)	金城大学 (石川県)	・女子バレーボール部との連携 スポーツビジネスのインターンシップとして、バレーボールチームの運営の業務の実践機会を提供する ・「音楽部」「ダンス部」等、クラブ・サークル活動の成果披露の場として、PFUブルーキャッツホームゲームにおいて観客に向けた発表機会を提供する ・金城祭(学園祭)をはじめ、各種イベントにPFUブルーキャッツも参加する
産学連携協定	2024. 4. 1	SV	ブレステージ・ インターナショナル アランマレー (山形県)	日本体育大学 (東京都)	・インターンシッププログラムの開始に伴ってデジタルツールを用いたマーケティングの実習やホームゲームサポートを実践している。
パートナーシップ	2024. 6. 21	V	千葉ZELVA (千葉県)	城西国際大学 (千葉県)	・東金地区の小中学生など地域住民を招待するV LEAGUEの試合開催を計画 している。 ・ホームゲーム運営への参画や大学・チーム発案の地域貢献活動を目指す。
連携・協力包括協定	2024. 7. 22	V	倉敷アブレイズ (岡山県)	くらしき作陽大学 (岡山県)	・2025年4月にスポーツ指導者らを育成する『健康スポーツ教育学部』を 開設する。 ・協定によってアブレイズが主催するバレーボール教室などに学生が指導者として参加し、子どもたちのレベルアップや地域の人たちの健康づくりに繋げるという内容。

活躍できる選手に強化しようという方向性が強くなっているのではないかと考える。強化という取り組みに加えて、音楽部やダンス部などの他のクラブを宣伝する場を設けることも記されていた。

SAGA久光スプリングスとびわこ成蹊スポーツ大学はホームゲームパートナー契約を結んでおり、大学女子バレーボール部の強化協力やホームゲーム時に大学のPRをするといった内容になっている。これまでの実績としては、びわこ成蹊スポーツ大学とSAGA久光スプリングスの練習試合が実現した。これにより接点ができ、大学生が球団スタッフとしてインターンシップに参加する機会ができた。この学生は最終的に正式に球団スタッフとして就職が決まるという就職支援の実績が明らかになった。

プレステージ・インターナショナルアランマーレと日本体育大学は産学連携協定を結び、すでにインターンシッププログラムの開始に伴ってデジタルツールを用いたマーケティングの実習や、ホームゲームサポートを実施していることが明らかとなった。

男子チームに関しては長野トライデンツと松本大学が事業連携・推進に関する協定を結び、学生スポーツの地域スポーツの振興と発展をサポートしていくことや、学生がホームゲームの運営スタッフとして参加するというインターンシップ要素の取り組みを実施することなどが記されていた。

サントリーサンバースと大阪青山大学はパートナーシップ契約を結んでおり、両者とも箕面市が活動拠点になっているため、同じ地域で共同で事業を展開していくという内容だった。

2. Vリーグと大学の連携について

2017年から2024年の6年間に於いて、大学と連携していたバレーボールチームはVリーグでは女子が2チーム、男子が1チームであった。まずアルテミス北海道は札幌国際大学と札幌国際短期大学と包括的産学連携協定を結んでおり、スポーツ振興や地域社会の発展に貢献することや、大学側は選手の体力測定やデータ分析などを協力したり、チーム側は学生のインターンシップの受け入れをしたりしていくという内容だった。

倉敷アブレイズとくらしき作陽大学は連携・協力包括協定を結んでおり、2025年4月にスポーツ指導者らを育成する「健康スポーツ教育学部」を開設することが明らかとなっていた。2003年に大学にスポーツ関連の学

部、学科が開設されてから20年以上経過しているが、現在もスポーツ関連の学部、学科の数は増加傾向にあるので、今後も伸びていくのではないかと考えられる。また、協定によって倉敷アブレイズが主催するバレーボール教室などに学生が指導者として参加し、子どもたちのレベルアップや地域の人たちの健康づくりに繋げる事業を実施するという内容も記されていた。

男子チームに関しては、千葉ZELVAが城西国際大学のパートナーシップを結び、主にホームゲームに関連する地域貢献活動を行うという内容であった。

全体を通して見ると、ヴィクトリーナ姫路だけが唯一のプロチームであり、3大学と連携していた。連携事業に関しては、大学バレーボール部の育成・強化に関する事業とSVリーグまたはVリーグのホームゲームに大学生が運営スタッフとして参加するなどのインターンシップ事業の2つが連携事業の内容として多く見られた。優秀な選手の発掘や、優秀な人材の確保という観点でも大学とバレーボールチームが連携することは両者を達成できる可能性を秘めているため、効果的な事業ではないかと考えられる。また地域貢献といった内容もいくつか見られた。チームのホームタウンでホームゲームをはじめ、バレーボール教室やイベントを行うことで、地域貢献になるだけでなく、チームにとってはファンやスポンサー獲得につながり、集客につながるというチーム側のメリットにもなると考えられる。大学とバレーボールチームの連携はバレーボールの発展だけでなく、社会貢献、地域貢献に寄与すると考えられるので、今後もこのような連携事業を積極的に行っていくことが求められる。

IV. 今後の課題

本研究ではバレーボールにおける大学とSVリーグ、Vリーグ所属チームがどのような連携をしているか明らかにすることを目的とし、現状どのような取り組みを行っているかをまとめることが課題であった。

NPB、Jリーグ、Bリーグと大学の連携を比較すると大学と連携しているバレーボールチームの数やSVリーグまたはVリーグ所属チームと連携している大学数は少ない傾向にあると考えられる。また連携事業については明確になっているが、具体的な取り組みについて明記されている事項も少なく、連携後に連携事業をどこまで実施しているか不明瞭なところがあった。「スポーツというコンテンツは、国家や地域経済を活性化させる力を

秘めている。スポーツ産業は認識されてまだ日は浅いが、スポーツをビジネスとした知識を有する人材の育成が必要不可欠であり、産学連携など既存の体制下に頼らず、人材を育成することが喫緊の課題」(永田, 2011)であると言われている。2024年に開催されたパリオリンピックの影響を受けて、石川祐希選手や高橋藍選手を筆頭に男子バレーボールの人気の高まり、メディア出演や広告出演が急増している。2024年からSVリーグも開幕するため、それらをきっかけにプロ化がどう進んでいくのか、チームの事業がどのように変化していくのかなど、バレーボール界はどのように変革されていくのか注目していきたい。

引用・参考文献

- 堀込孝二・前田和範(2021) プロスポーツチームによる大学との連携：関西圏に本拠地を置くプロスポーツチームに着目して、国際研究論叢, 34 (3) : 159-170.
- 松岡宏高(2008) 日本の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状と課題。びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 5 : 71-76.
- 永田靖(2011) 日本におけるスポーツ経営の特殊性－現状とその課題－。広島経済大学経済研究論集, 33 (4) 89-99.
- 武田義也(2024) Vリーグに加盟する企業スポーツチームの経営に関する研究 CSV の視点から。バレーボール研究, 26 (1) 59.
- 高松祥平・青山将己・久保雄一郎・但尾哲哉(2019) プロスポーツ組織の成長プロセスとステークホルダー・マネジメント：わが国初の女子プロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」に着目して。体育学研究, 64 : 825-839.
- 山本彩香・水野秀一・薄木悟・熊野陽人(2024) プロバレーボールチームと育成チームとしての大学バレーボール部との連携と成果について。関西福祉大学研究紀要, 27 : 107-113.
- 朝日新聞(2016) 姫路飛躍へ全日本タッグ：GMに前代表監督・真鍋氏、竹下監督と会見。http://database.asahi.com/library2/main/top.php, (参照日 2019年2月7日)。
- SVリーグ(online1) 【VLEAGUE REBORN】2024-25シーズンからのクラブライセンス交付規則が決定。https://www.svleague.jp/ja/v_women/topics/detail/22785, (参照日 2024年10月27日)。
- SVリーグ(online2) V大同生命 SV.LEAGUEとは。https://svguide.svleague.jp, (参照日 2024年10月27日)。
- 明海大学(online3) プロバレーボールチームヴィクトリーナ姫路と学校法人明海大学が連携協力に関する協定を締結、

https://www.u-presscenter.jp/article/post-39821.html, (参照日 2024年10月27日)。

ヴィクトリーナ姫路(online4) 学校法人親和学園と株式会社姫路ヴィクトリーナとの中学・高校・大学の一貫した技術指導を目的とした「包括協定」の締結並びに真鍋政義がスポーツ顧問に就任。https://www.victorina-vc.jp/information/20200729-7948/, (参照日 2024年10月27日)。